

米寿を賀す (松口月城)

解説 米寿を祝う詩。

君を 賀す 八十八 春風

身体 強健 顔色 紅なり

一代の 功績 敬慕に 堪えたり

更に 祈る 亀寿 鶴齡の 翁

語釈 ※米寿||米よねの祝いともいう。「八十八」の字画を詰めると「米」

に通ずるからである。江戸時代以降、親類・縁故者を招き、一家一門の長老の寿福を祝い、あわせて家門の繁栄を喜び合う宴席を催す習俗が行われ、その余風はなお今に及んでいる。※身体||人間のからだ。肉体。※強健||からだが強くて丈夫である。※顔色||顔色かおいろ。※敬慕||敬うやまい慕したうこと。※亀寿鶴齡||長寿でめでたいことのとえ。

通釈 春の風が君の八十八歳の米寿を祝す。現在も尚、身体、強健で、顔色は健康な紅色。一代で築いたこの功績は敬慕に値する。今後とも、更に寿命を延ばし、長寿を全うして戴きたい。